

平成 2 7 年度 第 1 回 天王寺区政会議

日 時：平成 2 7 年 7 月 2 8 日（火）

午後 7 時 0 0 分～午後 9 時 0 8 分

場 所：天王寺区役所 3 階 講堂

出席者

（区政会議委員）

朝倉委員・石川委員・出水委員・角野委員・河村委員・神崎委員

栗谷委員・越村委員・小西委員・酒井委員・谷口委員・田渕委員

出村委員・中野委員・服部委員・原田（久仁彦）委員

原田（照久）委員・飛田委員・平田委員・眞野委員・南委員・守島委員

出席 2 2 人／定数 2 8 人

（市会議員）

足高委員・金子委員

（天王寺区役所）

水谷区長・朝川副区長・川畠企画総務課長・佐藤事業戦略担当課長

近藤市民協働課長・大垣危機管理課長・北吉未来人材育成担当課長

寺井保険福祉課長・樋上保健・生活支援担当課長・加守田窓口サービス課長

桑川区民の声集約担当課長代理・渡邊危機管理担当課長代理

森（茂樹）市民協働課シティ・プロモーション担当課長代理

辰己保健福祉課福祉担当課長代理

河野保健福祉課子育て支援担当課長代理

議題

(1) 平成26年度天王寺区運営方針の実績・評価について

(2) 今後、取り組むべき事業について ※グループ討議

会議次第

1 開会(区長あいさつ)

2 議長あいさつ

○佐藤事業戦略担当課長

大変お待たせいたしました。定刻がまいりましたので、ただいまより、「平成27年度第1回天王寺区区政会議（合同会議）」を開催させていただきます。

私、天王寺区役所事業戦略担当課長の佐藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、本日の配付資料についてご確認のほうお願いいたします。5種類、お手元に資料がございます。まず、1点目「平成27年度第1回天王寺区区政会議（合同会議）次第」、裏面が委員名簿となっております。次にA4横書きの資料でございます、「平成26年度天王寺区運営方針の実績・評価について」でございます。その次に、3番目と4番目になりますがそれぞれ参考資料でございます、「26年度天王寺区運営方針自己評価シート様式1」でA3判の長くなっております資料がございます。そして「平成27年度天王寺区運営方針」、先ほど配付させていただきました配席図でございます。お手元に不足している資料等はないでしょうか。ございましたら、事務局のほうから配付させていただきます。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

まず初めに、水谷区長よりご挨拶申し上げます。

○水谷区長

皆さん、どうもこんばんは。夜分にもかかわらず、多くお集まりいただきましてありがとうございます。天王寺区長の水谷翔太です。

そして、また今回は区政会議ということで足高先生、金子先生にも足をお運びいただきまして、本当にありがとうございます。

今日は平成26年度天王寺区運営方針の実績・評価ということが中心でございます、いろいろと今年度福祉ですとか、教育ですとか、まずは取組を進めてまいりましたが、こちらについての進捗状況をお話しし、また皆様からご意見をいただくということになっております。ご存じのとおり私も今年度が区長としての最後の年度ということで、区長としての仕事ができる期間も本当に残り少なくなってきました。これまで進めてきたことの中のうち、多くのことはもしかしたら次の区長のもと変わっていくかもしれませんし、なくなっていくかもしれない。そうした中であっても、私もやっぱりこの3年間それぞれの分野でどうしてもやっぱりこれは進めないといけないと、この施策、この事業こそがやっぱり天王寺区の皆さん、また区のためにも重要だという、ある意味こだわりを持ってやってきたところでございますので、そうした中で残せるものは残して、また自分がやってきたことが天王寺区の次の時代につながっていくということもできたらいいんじゃないかというふうに思ってます。そういう意味で、今日も皆様にいろいろな観点から区のそれぞれの事業、進捗状況をチェックしてやることになりますけれども、改善できるところは改善すると、かつ、残すところは残すという観点でいろいろとご意見いただけたら、私が区長を去った後も、いろいろとこの天王寺区にとってもプラスになるところが大きいんじゃないかというふうに思ってます。区長をやめた後は一区民ということで、また新聞報道ですとか、ホームページ等でこの天王寺区としての取組、天王寺区はこれからどういうふうになっていくかっていうことを注目させていただいて、働きかけることは働きかけていけたらいいんじゃないかというふうに思っておりますので、今日はいろいろと天王寺の未

来にとって有意義なお話し合いが皆様とできたらというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○佐藤事業戦略担当課長

引き続きまして、両議長よりご挨拶いただきます。

まずは、中野議長ご挨拶のほうをお願いいたします。

○中野議長

皆さん、こんばんは。まずは、暑中お見舞い申し上げます。暑い日が続いております。本日は大変お疲れのところ、先生方を初め、皆さん方ご出席、ご苦労さまでございます。有識者を代表いたしまして一言ご挨拶申し上げたいと思います。

当区政会議委員会、合同会議は今年度初めての開催でございますが、有識者の皆様、また公募による委員の皆様方のさまざまな経験やお知恵をこの会を通じて区政に反映させていただき、区役所にはこれまで以上により取組を進めていただきたいと考えております。

なお、本日は私ちょっと体調不良によりまして、議長は栗谷さんのほうへお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。ご理解いただきまして、ありがとうございます。

以上で、挨拶は終わらせていただきます。ありがとうございました。

○佐藤事業戦略担当課長

ありがとうございました。

引き続きまして、栗谷議長ご挨拶のほうをお願いいたします。

○栗谷議長

皆さん、こんばんは。戦略会議の部長さしていただいております栗谷でございます。本日もお忙しい中お集りいただきまして、ありがとうございました。また、足高先生、金子先生におかれましても、お忙しい時間にありがとうございます。

昨年度から水谷区長が子どもたちに夢を与えてくれたということで非常にたくさ

んの取組をしていただきまして、即興型英語ディベートスクールも私の娘が参加させていただいて、成績ががっちりと上がりました。そして、レジェンド・イン・ハイスクールといいまして、高校にメジャーリーガーの人が指導に来てくださり、夏の高校野球の予選では貴重な1勝を上げられたという、やはり子どもたちはすごく結果がすぐに出るなっていうのが本当に水谷区長の施策で実感している次第でございます。

今後また天王寺公園も再生できますし、また来年NHKの大河ドラマ「真田丸」もやってくるってことで、本当に来年度もさまざまな形で全国ネットになる天王寺区になってくると思いますので、また皆様の本当に今日貴重なご意見をいただければと思っておりますので、短い時間ではございますがどうぞよろしくお願いいたします。

○佐藤事業戦略担当課長

ありがとうございました。

それでは議題に入ります前に、報告事項のほうがございます。まず、本日のご出席の委員ですが、配席図のとおりとなっております。個別のご紹介は割愛させていただいておりますので、ご了承くださいませ。また、岡田安弘様以下全6名の方、所用により欠席ということでご連絡いただいておりますこと、この場をかりて報告させていただきます。なお、7月付で区老人クラブ連合会よりの委員が生駒様より朝倉様に交代となっております。この場をかりてご報告させていただきます。

また区政会議には、お忙しい中、ご挨拶の中にもございましたが、足高先生、金子先生にもご出席いただいております。ありがとうございます。本日も議題の最後にご助言、ご意見賜りたくお願い申し上げます。

また、本日のこの会議には傍聴の方もおられますので、ご発言の際には担当者がマイクをお持ちいたします。マイクを使って声が通るようにご発言のほうお願いいたします。なお、本日の区政会議の様子をホームページであるとか、区広報紙に掲載いたしますので、会議中何枚かお写真をとらせていただきますこと、ご了承くださいませ。

それでは、ここからの議事進行を栗谷議長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

ます。

○栗谷議長

本日は皆様のご協力のもと、会議が有意義なものになりますように進めてまいりますので、どうぞ皆様のご協力をひとつよろしくお願い申し上げます。

議題（１）につきましては、質疑を含めた午後８時までを予定しております。議題（２）におきましては、グループトークとさせていただきます。机の配置も変えて、８時過ぎから８時４０分ぐらいまでを予定しておりますので、また皆様の貴重な意見をいただけるかと思えます。引き続き８時５０分ごろより、足高議員、金子議員よりご助言・ご意見をいただければと考えております。皆様のご理解とご協力のもと、よろしくお願い申し上げます。

それでは議題（１）につきまして、資料「平成２６年度天王寺区運営方針の実績・評価について」に沿って、区役所より説明お願いいたします。なお、参考資料１・２は説明を予定しておりませんが、議題（１）及び（２）の討議において参考にしていただければと思います。

それでは、水谷区長よろしくようお願いいたします。

○水谷区長

はい、わかりました。私、水谷より「平成２６年度天王寺区運営方針の実績・評価について」という資料をもとにご説明してまいりたいと思います。

１ページを開いていただきたいと思います。まず１ページ目に書いてありますように、区の目標というところは区の中長期の方向性を示した将来ビジョンに書いてありますように、みんなの「思い」が区政に反映されているまち、未来を担う人材が育成されているまち～日本一の文教「都市」の実現～、「命を守る政策」がしっかりと進められているまち、歴史的・文化的資産を活かして多くの人が集いにぎわうまちいうことになっています。これらの実現を目指した平成２６年度の取組について、続いて順番に説明してまいります。

まず最初にですが、経営課題１、区民の声集約プロセスの強化というところをご覧ください。私が区長に就任しまして特に力を入れてきたところですが、天王寺区におられる７万６，０００人の区民の方々、当然区政に対して積極的にご意見をおっしゃる方、そうでない方がおられますが、そうした方々の多様なご意見やニーズが区役所にどのくらい届いているのかと、こちらのほうモニターアンケートを実施しましたところ、平成２６年度までに９０％という目標を掲げたのに対して２９．４％となかなか苦戦しているという状況でございます。下に括弧の中、これ前年度のものですが、１２．２％からは大きく伸びたものの、大阪市全体でも平均値は１９．２％、２４区のどれもが２０％にも満たないという中でいろいろと苦慮しているという状況であります。具体的な取組としてはその下にも書いてますように今こうしておりますような区政会議、それから区民の中から無作為抽出でアンケートに答えていただく方を選んでアンケートを答えていただく区民モニター、それからあなたの声をつなげ隊といまして家の中におられる方、あるいはスーパーや公園で出てこられている方に直接伺って、いろんなご意見をいただくという活動、これらを通して区民の声を反映してまいりました。具体的な回数は、その下にも書いておるところでございます。特にいろんな幅広い区民の方々に直接的に声を伺うつなげ隊に関する意見聴取は、２，０８６人の回答、毎年だいたい２，０００人程度に回答いただいているという状況でございます。

それから、広報媒体のほうもいろいろと工夫いたしまして、広報紙、皆さんも読んでいただいたことがあると思いますけれども、表紙を折れば真田幸村の兜になるものがあつたりとか、そういうちょっと思わず手にとってみたくなるような広報紙として、これまで発行を続けてきております。そのほか、ホームページや報告会といった機会に区民の方々に情報を届け、また意見をいただくということも続けてきたんですが、この点まだまだ、実にモニターアンケートとかですと区民の３分の１の方しかやっぱり十分にご意見が届いてないという状況でございますので、一層の努力をする

状況にあるのかなというふうに思っています。

次のページを開いていただきます。続いて、地域担当制の充実というふうに書いておりますけれども、区内でいろいろな福祉とか、あとはまちづくりとかいった地域活動をしている方がおられますが、そういった方々をやはりサポートしようということで中間支援組織、天王寺区まちづくりセンターという機関が設けられておりまして、こちらと連携して、それぞれの地域に実情に応じた総合的な支援が行われていると感じている層が、平成26年度までに80%以上目指そうというのが今75%まで来ていると。こちらは昨年度が49.5%ということで、ようやく7割を超えたと、もう一息で目標達成というところですが、まだやっぱりここに到達するまでにはちょっと壁があるという状況でございます。具体的には、地域別の課題それぞれにいろいろとありますけれども、これを共有して解消に向けて頑張っていこうということで、天王寺区役所の職員にもそれぞれの地域担当というものを付して、地域で行われてる行事ですとか、職員サービスといった福祉的な取組とかに足しげく出かけてもらって、課題の集約・把握というものに努めてきたという経過がございます。

それから戦略1-3と書いたところ見ていただきたいんですけども、いろいろな区政改革を進めていく職員づくりを進めようということでいろいろと取り組んでまいりました。具体的には職員が自発的に自分たちの持っている、手話ですとか、デザインですとか、そういったノウハウを教え合うというような職員塾を開催してきまして、そういったこともあって今やりがいを感じてる職員の割合は82.9%にまで達して全区の平均は超えているんですが、目指すべき90%には一步届かないという状況がございます。

今この経営課題1というところを総括させていただきますと、区政会議や区民モニター、つなげ隊といったところで区民意見の聴取に取り組んできました。途中から区独自でPD“L”CAサイクルという、これ概念的なものですけれども、いろいろと区の事業を検証して改善すべきは改善するという流れをつくっていく中で、特にこの

P D C Aの真ん中の“L”の部分、L i s t e nですね、区民の意見を聞くということころを重点的に取り組んできました。しかしながら、区民の意見の施策への反映状況、要は区民が意見を言って実際それがどのように反映されたのかということ、もっとももっとやっぱり伝わりやすくするように情報の見える化が課題になっておりまして、広報紙やホームページを活用しながらより一層この点に取り組んでいく必要があるのかなというふうに思っております。地域課題の解決について、区役所担当職員とまちづくりセンターのコーディネート機能を強化して、より緊密な連携体制を構築していかないといけないというふうに思っております。

次のページをご覧ください。続いて経営課題2の「日本一の文教『都市』」を目指した人材育成の取組についての話でございます。

まず1つ目ですが、地域の未来を担う人材の育成ということで、ディベートスクールの取組をしてまいりました。先ほど栗谷議長からも少しお話をいただきましたが、中学生を対象に即興で英語でディベートできる子どもたちをつくろうということで、有志を募る形で進めてまいりました。こちらは満足度90%に対して80%ともう一歩というところではあるんですが、実際参加された子どもさん、初めはほとんど即興で英語でしゃべることができなかったお子さんも、約半年間の授業を経て、本当に原稿を見ずに堂々と自分の言葉を英語でスピーチができるようになったという例もございます。そのほか、中高生を対象に企業等で職場体験をするインターンシップですとか、K i d s C i t y !天王寺といいまして天王寺区内の小学生が一堂に会して世の中の仕事を、どういうのがあったら世の中が豊かになるかということを考えてそれぞれの仕事を演じるというイベントをやってまいりました。こちらK i d s C i t y !については天王寺区から始まった事業ということで今年度は教育委員会に引き取られ、全市を対象に事業が行われるというふうになっております。それからジュニアクラブ、これは私が区長に就任する以前から続けられてきた取組でございますが、天王寺区内の小学校4年生以上の子どもたちがこのクラブに登録して、各地域で行われ

ているイベントのボランティアスタッフ、あるいは地域を学ぶような活動に取り組んでいるという状況でございます。今、この活動がボランティアで年５回ぐらい行われていて、年間１回以上活動に参加した会員数４３名という状況で、新規会員をいかに拡大していくかといったところが依然課題になっており、うまくもっていないんですが、ジュニアクラブのことについても広報して会員を巻き込んでいくということが必要になろうかなというふうに思っております。即興型英語ディベートスクール、冒頭に述べましたがこれまでに４６１名が参加しているという状況でございます。ディベートに本格的に取り組む生徒さんもおられれば、留学生との交流という形でかかわってる学生さんもおられ、足して４６１名の参加が達成されているという状況でございます。

次のページご覧いただきたいと思います。同じ人材育成の取組についてなんですが、特に子育て支援のところで子育てに必要な情報が必要な時に的確に得るということができていると感じる子育て世帯がどれぐらいいるかというところについて、８０％という目標を掲げてます。こちらも現時点でまだ未測定ではありますが、非常に重要なことですので、いろいろな手段を通じて子育て層からご意見を得ていこうというふうに思っております。具体的に子育て情報の発信ということでどういうことをやっているかということが下に書いております。まず１つは、子育てスタート応援券ということを昨年度からやっております。天王寺区内で子どもさんの生まれた世帯に対して１万円分のクーポン券をお配りする、それと同時にいろいろな子育てサービスがございますが、例えば任意の予防接種ですとか、例えば病児保育・病後児保育ですとか、例えば託児サービスですとか、そういった事業のそれぞれ民間で行われているものをわかりやすくまとめたカタログをお送りして、その子育て応援券を使って、さまざまなサービスを利用して子育て意識を高めてもらおうということをやっております。こちら当初どれぐらいの方が申請するかということも危ぶまれたのですが、他自治体の例とかも教訓に学びつつ利用申請率は９７％と、ほぼ１００％に近い形で今日まで推移

してきているところでございます。それから、子育て情報アプリ「ぎゅっと！」というものをリリースいたしました。最近の親御さん、私もちょうど子育て世帯ですけども、スマートフォンでいろいろと情報収集されている方も多くございます。スマートフォンのアプリケーションということで「ぎゅっと！」というものを開発して、今日までにダウンロード数が1,046件というところになっており、一度ダウンロードしておく、住んでいる住所と子どもさんの年齢に合わせて個々に適した情報が自動的に届くという機能を持っておりますので、いろいろとまだ改善の余地もありますけれども好評を博しているところなのかなというふうに思っております。それから、なかなかスマートフォンを持ってる方だけではございませんので、この天王寺区役所の講堂で子育て情報博覧会という取組もやらせていただきました。これがどういうものかといいますと、区内の私立・公立を問わず幼稚園・保育所さまざまな施設に来ていただいて、保護者の方にとってはそれぞれの情報を一挙に得ることができるというもので、園と園を比較しながら子どもさんをどの園に通園させるかということも考えていただける機会ということで昨年度、初めて開催させていただきました。今年度も予算として計上しておりますので、また開いてまいりたいなというふうに思っております。それから、天王寺区もほかの区に同じように待機児童の問題もいろいろと深刻になってきております。この間ずっと待機児童解消に向けて保育施設の誘致ということに取り組んできましたが、天王寺駅前のおおぞら保育園ですとか、ちょっと小規模保育ということで定員は少なくなりますけども蓮美幼児学園 石ヶ辻プリメールといったものを設置して、現在もまた設置してもらえるようにいろいろと呼びかけをしているところでございます。それもありまして待機児童数については、平成25年4月に19人だったものが平成26年4月で21人ということで増えましたが、この27年4月に11人という、いったん増えてまた下がってというイタチごっこを続けているところでございます。一層減少させるためにはやはり保育施設の増ということが必要だろうということで、引き続き取り組んでまいりたいと思います。

次のページを開いてください。述べてまいりました経営課題2ですが総括しますと、まず子育て世帯が多く教育意識も高いといった天王寺区の地域特性に着目し、子育てスタート応援事業を初め、他区にはない大阪市の本当に前例を乗り越えるような独自の事業を着実に進めることが今までできました。27年度は新たに元プロ選手によるスポーツ指導ということにも取り組んでおります。これは、区政会議でもやっぱり教育とか人材育成というからにはスポーツ分野でも頑張ってもらいたいというお声もいただきましたので、それを受けとめてレジェンド・イン・ハイスクール事業というものを今年度から実施しております。具体的には、元メジャーリーガーの小宮山悟投手に講師という形で大阪ビジネスフロンティア高校野球部に来ていただいて、この間指導を続けていただいております。大阪ビジネスフロンティア高校、野球ではなかなか苦戦を強いられている高校でございまして、今までに夏の大会で勝利を上げたことがないということで、この夏の大会では悲願の1勝を上げられるかどうかということが非常に注目されていたのですが、小宮山先生の指導とそれから高校球児の皆さんの努力のかいあって何とか初勝利を上げることができたという非常に記念すべき夏の思い出を今回は手にすることができたというふうになっております。これまでスポーツですとか、さまざまな分野でいろいろな取り組みしてはりましたが、どうしても事業の特性上利用者数が限られると効果が一部にとどまるというところがありますので、この辺について、利用者はどうしても少ないけれども区の未来にとってやっぱり重要だろうねというふうに思っていただけか、あるいはやっぱり利用者ふやさないといけないよねというふうに思っていただけか、これはやっぱり区民の方々からのご意見にもよって変わってくるところだと思いますけれども、そうしたご意見もいただきながら今後の事業としてのあり方を決めていくということが必要ではないかというふうに思っております。

経営課題3をご覧いただきたいと思います。次のページです。まず戦略3-1ということで、高齢者見守り体制の構築というところ取り組んでまいりました。天王寺区

内、独居高齢者も全体の高齢者に占める割合が多いと言われておりますが、これらの見守り体制が構築されていると感じる区民の割合、こちらが平成27年度で80%を目標として掲げておりました。現在、昨年度の47.7%から伸びて59.3%まで達成してきておるわけですが、まだ一層の努力が求められている状況でございます。こちらの目標を達成するために具体的な取組としましては、区役所職員がまず独居高齢者のところを訪問して、積極的な訪問を受け入れるということについて同意してくださった住宅に地域の方々がまた訪問に当たるという見守りサポーター制度というものを創設したのが1つと、それから天王寺区内にもさまざまな福祉施設がございますけど、これらの福祉現場のニーズを把握するということで取組を進めてまいりました。前者の見守りサポーターにつきましては対象世帯が2,047世帯あるんですが、これらを全て回りまして、その後の継続的な訪問について同意をしてくださった方が514世帯ということですので、これらの情報を地域とも共有して、今、見守りを進めてきているところでございます。福祉現場のニーズの集約は、具体的にはアンケートという形でこれまで1回実施しております。

これらの経営課題3を総括いたしますと、独居高齢者の数は今後も増加することが見込まれ、急病時・災害時の孤立が懸念されています。これについて地域における見守り体制は、まだまだ課題はあるものの着実に広がってきています。地域ぐるみの活動だけではやっぱり限界もありますので、地域と連携を一層深めていく必要があるということで取組を進めています。また、今年度からは全市的な課題である災害時の要援護者支援ということで、この見守りサポーターで見守りをされているサポーター、より幅広く災害時に負担を強いられるお年寄り・障がいをお持ちの方に対する見守りをしていかないといけないということで予算もおりておりますので、これを受けとめて高齢者中心に要援護者一人一人の命を守り抜く福祉の確立というものをしていかなきゃならないというふうに思っています。

次のページを開いてください。続いて、より多くの人の「災害対策リテラシー」を

向上する事業の追及ということでございます。天王寺区は上町断層帯が区の直下に通っていると考えられており、こちらのほうで地震があったら区内が大阪市の中でもトップクラスの人的・物的被害をこうむるということで、それに対する備えとして自助・共助・公助の取組をこれまで進めてまいりました。災害時の持ち出し品の用意率について、家でどのくらい防災備蓄をしているかというところで世帯数の８０％を目指そうということでやってきたんですが、まだまだ３８．７％と苦戦しております。これしかも去年よりもちょっと下がっているという状況なんです、やはりもうちょっとてこ入れをする必要があるという課題感を感じております。それから家具の固定率です。平成２７年で世帯数の８０％の目標を持っておりましたが、こちらも４０％から３０％の間をうろうろとしていて、なかなか伸び悩んでいる状況がございます。これらの課題を乗り越えるために区民巻き込みオペレーションということで、いろいろと区役所等で防災の講座をしてもなかなか来ていただける方がおられないので、住んでいるところに区役所のほうから直接うかがって出前講座でやってみたり、あとはお年寄りですと家具を固定するのもなかなか肉体的に負担を伴いますので、区役所のほうでしっかりと契約した業者が家具を固定するという取付支援をしてまいりました。これらについてはいろいろと広報も進めているんですが、まだまだ達成状況という数字にあらわれてない部分もございますので、冒頭のほうでも説明しました区民に直接コミュニケーションをとる「あなたの声をつなげ隊」等も活用しながら、家具固定率の向上、備蓄の向上に努めていかないといけないなと今思っているところでございます。

次のページをご覧ください。災害が起きて避難する災害時避難所についてですがこちらの場所を知っている区民の割合について８０％を目指しているところ、既にこの８０％クリアして８５．４％というところになっております。これについていろいろと区役所のほう、これまで天王寺区防災ハンドブックを全戸に配ったりとか、区役所の広報紙でも防災特集を組んだ際は全戸配布という形で区内の全体に確実に届くよう

にしたりとかしてきました。いろいろと区内でも、避難所は私が就任したころは、まだまだ足りないという状況はあったんですが、危機管理課のほうでいろいろと取り組んで数は増えてきました。ただ避難所を増やすだけじゃなくて、どうしても近隣に避難所がないマンション集積地帯とかも区内にはございましたので、こちらはいざ災害が起きた時に避難所に行くのではなくてマンションの中で籠城戦を強いられるという状況もあろうということで、こちらに物資備蓄の拠点を設けたりしました。それから、避難所をただ増やしていくというだけではなくて、妊産婦の方とか、いろいろ持病を抱えておられる方、障がいのある方に過ごしてもらいやすいような福祉避難所をつくらないといけないということで、こちらのほうの整備も今進めているところです。いろいろと量的な面、質的な面で防災に対する備えを進めてきたというところがございます。

それから、戦略４－３こどもの安全安心の確保というところですけども、子どもの安全が守られていると感じる区民の割合で、平成２７年度に７０％を目指すというところが７９．４％に達してきております。いろいろ取組を進めておりますけれども、特にやっぱり重点的にやってきたのは防犯カメラの設置でございます。今まで防犯カメラというものは町会を中心とした地域に対する一部補助という形で普及に当たってきました。しかしながら地域で持ち出しが発生しますから、なかなか防犯カメラの普及も進まない。一度持ち出して終わりではなくてランニングコストもかかってくるので、なかなか普及が進まないというところを何とかしようということで、設置もランニングも行政の予算で見ることとして、特にいったん事件が起きたら社会に与える影響が大きかろう子どもに着目して、通学路を中心に防犯カメラの配備を進めてまいりました。毎年度で設置の数は倍増していったんですが、今年度は３倍増ということで全小学校区に防犯カメラを設置していこうとしているところでございます。

次のページを開いてください。あとは放置自転車の問題にも取り組んでまいりました。平成２８年度までに１００台まで減少するという目標が、１５２台まで来ており

ます。これもいろいろと啓発活動とか、撤去の頻度の増加とか取り組んできてるんですが、やはり課題となっている天王寺駅周辺ですとか、そういったエリアに関しては特に撤去の増加ということが重要になってくるのかなというふうに思っております。もちろんあわせて駐輪場の増設というところも必要になってくるわけですが、なかなか駐輪場を設けられるような空地もないということでございますので、これまでにJRの敷地を80台分の駐輪場として使ってくれないかと働きかけて、実際に駐輪場にさせていただいたということもございましたけれど、なかなか一挙に駐輪場を拡大していける状況ではございませんので、なるべく自転車がたまりかけたら撤去することと、それぞれのマナー向上を呼びかけていくというところがポイントになってこようかというふうに思っております。

続いて、区民の安心・安全を担う総合拠点としての区役所づくりということで、先ほども少し触れましたが、防災など危機事象ごとの計画やマニュアルというものを区役所でも作成しております、これらについて知っている区民の割合80%以上を目指しているところが73.4%という状況になっています。こちらについては、様々な計画があるんだよということや実際こういう中身で計画を立てているんですよということをさまざまなイベントを通じて伝えていくということが必要になってこようかと思います。

次のページで総括をまとめております。出前講座ですとか、四天王寺の境内を使わせていただいて、いろいろ遊びながら防災を学ぶ「あそぼうさい」というイベント、この3月に実施したんですが、こういった取組を通じて区民一人一人の災害対策リテラシー、どうやって災害に対策の備えをつくっていくのかという、そこら辺の知識の強化が図られ、今後区民の自助力・共助力の向上につながるものと確信しています。一方で、家具の固定率ですとか重点指標が目標をいまだ大きく下回ってる状況もありますので、啓発等を継続することに加えて、有効な取組の再検討をしていかなければならないと思ってます。子どもの安全安心の確保、放置自転車対策については成果は

順調に推移していますが、これらについては油断は絶対に許されない事柄ですので、各取組を通じて区民の安全安心の確保を図っていかねばならないと思っております。

次のページをご覧ください。経営課題5、戦略的なシティ・プロモーションの推進と書いております。ご存じのとおり来年は大河ドラマ「真田丸」が放送されるということで、主人公の真田幸村は天王寺区にゆかりの武将なので天王寺区としても町のPRをする絶好の機会が来たと、そういう状況が今でございます。これに乗じて、天王寺区の魅力発信、観光振興をしておるわけですが、実際にこの観光振興が十分にできていると感じる区民の割合を90%に達していこうと目標を掲げております。現時点でまだ測定しておりませんが、これを達成するためにこれまでも天王寺真田幸村博というイベントを開催してまいりました。天王寺公園、真田山公園、上本町6丁目のハイタウン、場所を移してこれまでに3回開催しておりまして、来る10月31日も続いての第4回目の真田幸村博を開催しようということできいろいろ取組が進められているところでございます。

続いてですが、戦略5-2、JR天王寺駅北口及び周辺地区の地域ビジョンの確立でございます。これはどういう事業かといいますと、天王寺駅北口のところは、反対側の南側ですね、あべのハルカス、キューズモール等が出来て非常ににぎわっているのに対して、耐震性の問題でも、にぎわいの部分でも課題がある。これらを何とか立て直そうということで地域ビジョンを立てて、それに共感する区民の割合について、70%を目指していたんですが、この地域を立て直していくためには何が必要かという基礎的な調査をしたところ、いろいろな課題も出てきましたので、地域ビジョン確立のために、少し検討を重ねているという段階でございます。これまでのやり方としては、商店街がございましてその事業者さんにアンケートを実施したりとか、調査機関に依頼して具体的にどういう形での開発が可能なのかという可能性を検討したりしてまいりました。それらを基礎的な資料と位置づけて、整理をして、今後のこ

のエリアの活性化のあり方が考えられたらいいんじゃないかというふうに今思っております。

続いて戦略5-3、経済振興の推進でございますが、これについては天王寺区の歴史的資源等を活用した新しい新産業が勃興すること目指していこうということで、起業家の育成、起業が推進されていると感じる区民の割合70%を目標と掲げまして、現時点ではまだ測定はできておりませんが、起業家を志す方を応援するビジネスプランコンテスト等のイベントをやってまいりました。天王寺区を舞台とするビジネスプラン13件を受け付けてコンテストをやってきたわけですが、今回初めての取組ということでいろいろ課題もございましたので、また次回やる際により内容を充実してきてもらいたいんじゃないかというふうに思っております。

次のページをご覧ください。経営課題5の総括ということでまとめております。大坂の陣400年に合わせて「天王寺 真田幸村博」を開催し、歴史的・文化的資産を中心に区の魅力を内外に発信するとともに、シティ・プロモーション、まちとしての売り込みですね、この機運の醸成に取り組むことはできたと認識してます。来年度NHK大河ドラマ「真田丸」の放送を契機に、多くの来訪者が天王寺区に来ることが予想されますので引き続き「幸村博」の開催に取り組むとともに、真田丸顕彰碑、天王寺区内に実際に真田幸村が築いた砦である真田丸があった場所があるんですが、こちらに顕彰碑を設置するということで進んでおります。それから来年の2月ごろ、観光に来られた方をご案内する案内板など、基礎的なインフラ整備に取り組んでまいります。今後は幸村博を機に動き出した地域の独自の取組をもとに、地域の方々が主体になってシティ・プロモーションを展開していただけるよう活動しやすい基盤づくりに取り組んでいきたいと思っております。こういう町の観光推進ですとか、イベントごとでも、いつまでも役所で抱えているという状況は望ましくなかならうということがありますので、地域の商店主の方々とか若手の方々を結集して、町の今後のにぎわいづくりの取組だということで当事者意識を持って頑張ってもらいたいんじゃないかというふ

うに思っております。

続いて、経営課題6、市政改革プランに基づく「大きな公共担う活力ある地域社会づくり」というところをご覧ください。連合振興町会エリア単位での課題の共有と解決に向けた取組の支援ということで、地域運営にさまざまな活動主体が参画し、会計をオープンにするなど地域が一体となって運営されていると感じる区民の割合について、これまで90%以上を目指してまいりましたが25.6%、天王寺区だけでなく、ほかの区も平均して11.7%と非常に大きく伸び悩んでいる状況がございます。これについては新たに始まった地域活動協議会、これについての情報発信をより強固にするということではなかなか達成できないというふうに思っているわけですが、地域活動協議会への活動支援ですとか、会計の透明化を十分にやっていただくための説明会の開催ですとか、コミュニティビジネス、ソーシャルビジネスといった新しい地域活動に関する情報交換会を開催してまいりました。

次のページをご覧ください。地域において、まちづくりに関して既存の地域団体ですとか、NPO、企業といったさまざまな主体が連携・協働して進められているという区民の割合、これも60%以上を目指していたんですが40.3%ということで他区よりはいい数字が出ているにもかかわらず、まだまだ足りないという状況でございます。これについてはいろいろと区の広報紙のほうでも町会等、既存の地域と連携して地域をより充実させることをやっていきませんかということで呼びかけるなどしております。それから、「地域課題解決担い手発掘事業」というちょっと長い名前ですけれども、天王寺区で子育てですとか、まちづくりといったテーマで、今まで地域活動をやってなかったけどもちょっと頑張ってみようかという気になっている方々を応援するような取組も始めまして、それぞれに活動が始まる中で地域活動協議会単位で、団体の垣根を越えて今後まとまっていくためのサポートができたかなというふうに思っております。下には地域の活動の様子をちょっとまとめておりますので、それぞれの地域でこういう活動があるんだなということをご参考に見ていただけたら

いいと思います。

次のページをご覧ください。経営課題6の総括ですけれども、地域活動協議会の活動に対する支援で一部地域では社会的ビジネス化への取組や地域活動への新規参加者の増加など、活動自体は活性化してきているものの、取り組まれている活動内容について地域住民への情報発信がまだまだ足りないというふうに認識しております。よって、地域に住んでいらっしゃる住民の方が関心を持って活動に参加してもらえよう、区役所とまちづくりセンターで連携して、地域活動に対する支援、それから地域活動でこういうのがあるんだよという情報発信を強固に行ってまいりたいと思います。

以上述べてまいりましたけれども、自己評価結果全体を総括いたしますと、区将来ビジョンに基づく区の目標の実現に向けて各事業・施策において単年度の業績目標レベルでは、おおむね目標値を上回るなど着実に取組を進めることができました。一方で、こうした取組の認知度がまだまだ十分ではない、施策として浸透していないということで、区民の皆さんの認識表示をするアウトカムには達成に至らないものもあり、引き続きアウトカムや取組の見直し、情報発信の強化が必要であると認識しています。実際取組は始める前にほかの区の動向等もかんがみながら、目標値80%、90%と立てていた部分がございますので、いろいろと動かしてみた上で一体この年度目標としてはどれくらいのパーセンテージが妥当なのか、数年で見るとどれくらいのパーセンテージが妥当なのかという具体的なイメージを持って今後は目標を立てて、実際にその目標をクリアできたのか、クリアできていないのかということが今後のPDCAも合わせていく上でも非常に重要になる、そういうことをやはり今度はしていけないといけないのかなというふうに思っています。目指すべきは冒頭に述べましたような区将来ビジョンの実現であると思いますので、引き続きこれに向かって区政に取り組んでまいりたいと思います。

長々となりましたが、私のほうから以上です。

○栗谷議長

水谷区長ありがとうございました。

ただいまの水谷区長の説明について、これからご意見・ご質問をお願いしたいと思います。なお、発言される方は挙手にてよろしくお願いいたします。それでは皆さんいかがでしょうか、お願いいたします。

南委員、マイクお持ちいたしますね。

○南委員

すみません。南いうものです。ずっと何%、何%で言われてるんですけども、実際にこの%というのはどのような感じで評価されて%とられてるんか、そういうの僕わからないんですけど、すみませんけど説明してもらえますか。

○佐藤事業戦略担当課長

担当のほうから説明させていただきます。

この%といいますのは区民モニターでありますとか、市政改革プランに基づく場合は市民局のほうで、指標を一般的にモニターの方に対して無作為抽出した市民の方に、こういった実感がありますかということを質問を送らせていただいております。それでいただいた回答が何%と、特に多様な、いろんな区民の方の認識を問うような内容のものにつきましては、それを感じてる割合が何%ということで指標としてとっております。また、自転車なんかのように放置自転車の台数といったものが152台というようなものがありましたけれども、それは定点観測した結果での放置自転車の台数ということであり、認識を問うようなものに関しましてはアンケート調査の結果を目標としており、26年度にとったアンケート結果を掲載させていただいております。

以上です。

○朝川副区長

副区長、朝川です。補足なんですけど、参加型の事業、ディベートとかインターンシップとか、そういったものについては実際それに参加された子どもたちにアンケートをとって満足度をはかっています。

以上です。

○栗谷議長

よろしいですか。

飛田委員、よろしくお願いします。

○飛田委員

すみません、飛田です。これを見ると、どんな取組してどんな課題があるというのがあるんですけど、なぜその％に行かなかったかっていう原因の分析っていうのがどこにもないんですが、これはいつ原因の分析っていうのはされるんでしょうか。

○朝川副区長

個々の担当で、なぜ目標に達していないのかっていう分析はやりつつあるんですけども、一覧の形でまとめ切れていないというのは率直なところでございます。そのあたりにつきましては引き続きこういった区政会議の場、あるいはつなげ隊によります区民の皆様の意見を聞きながら、きっちりと検証して、また来年度に向けた策を考えていきたいと思っております。

○栗谷議長

谷口委員、よろしくお願いいたします。

○谷口委員

谷口です。この広報紙に1, 574万円ってここ書かれてますが、広報紙は新聞に折り込みされてますよね。その新聞をとってない方には広報紙は渡ってるんですかね。一度、前に私が聞いたことには、新聞はとっておられない方は自分で区役所に連絡すれば個別に配付をしてもらえるということを聞いたんですけど、だいたいみんな新聞若い方はとっておられないんですよ。それで、この前マンションの方に聞きましたら、私は新聞とってますけどほかの人みんなあんまり新聞とってないんですよって言うておられましたので、その方は多分個別に配送してもらえると思いますけどって言うても、新しい方がいろいろ来たり帰ったりワンルームとか若い方が多いので、

多分ご存じじゃないんじゃないかと思いますが、それはどうしておられるんですかね、現在は。

○佐藤事業戦略担当課長

おっしゃっていただいとおり、購読申し込みいただいた方にはご連絡いただいた翌月から個別配送させていただいております。また、転入者なんかのグッズといひまして転入の方に1セット全てお渡しする分があるんですけども、その中にも購読の申込書は入っております。また、私どもがツナげ隊活動ですとか、もしくはまちかどパートナーということてふれあい喫茶やそういったところに訪問させていただいた際にも、広報紙知ってらっしゃいますかということてお持ちして、知らないとか見たことないとおっしゃった方にはその場で申込書を書いていただきまして、できるだけ皆さんの目に触れるようにということて意識しながら活動しております。よろしくお願ひいたします。

○谷口委員

そうですね。今の広報紙ですが、すごく魅力が増したと思うんですよ。初めの表紙もいいですし、中の内容もすごいわかりやすくていいと思いますので、皆さんに読んでいってもらってね。私はまたわからない人がいてたら、またぜひそのことお伝えしたいと思います。

○栗谷議長

角野委員さん、よろしくお願ひいたします。

○角野委員

角野でございます。ずっと見せていただいとて、私自身の興味といますか、広報紙やホームページで活用しながら引き続いていこう、これで36.1%、5ページ中のところですけども、広報紙もそれからホームページも非常に努力なさってることては感じてます。なぜ、こう低いのかな。少なくとも70%、80%目指すとしたら、50%前後まですごい努力いるけど行けると違ひうかな。そこで、今思います大事な

ことは、天王寺区民の中でホームページになじんでおられる方がどのくらいいらっしゃるのかな。むしろ、活字になじんでおられる方がどのくらいおられるか。そういうことをわかってきますと、調べると50%・50%になったり、いろんな4・6ぐらいであんまり差ないかも知れませんが、やはりまだ比較的高齢者の多い天王寺区ですと、ホームページになじんでるという言い切れない面があって、しかしこういう時代ですからなじんでいかないとはいけんでしょうけど、そういったところからやっぱりここに書いていただいているように両方が大事だなと思いますんで、そういうなじんでおられる率っていうのにちょっと関心持ってるところです。

以上です。

○朝川副区長

本当におっしゃるとおりで、実際どれだけの方がなじんでおられるかという率の把握はできてないし、できようもないんですけれども、やっぱりホームページ、それと活字媒体、その他のやり方ですね。やっぱりいろんな複数のツールで繰り返し繰り返し伝達していくことが大事なのかなと思っておりますし、今後もそうしていきたいと思っております。

○神崎委員

神崎と申します。3ページなんですが職員さんに対するアンケート、仕事にやりがいを感じてるというくだりなんですけども、これは対象の職員数というのは何名のアンケートなんでしょうか。

○朝川副区長

今職員が約百二、三十人おりまして、回答率がちょっと今資料ないんですけれども、その職員からの回答結果でございます。

○神崎委員

対象職員数が120名ぐらい、その回答率がわからないというところですが、これほぼ回答されてるという理解でよろしいですか。

○朝川副区長

それでいいと思います。

○神崎委員

その中で8割強の方がやりがいを感じられる、それは大変結構なんですけども、逆に2割弱の方がやりがいを感じられていない。これは、どういうふうに捉えられていますか。

○朝川副区長

近年、区役所予算も権限も大幅に委譲されて、それがゆえに先ほど区長からもお話しいただいて今もさまざまな事業が区長の主導でできておりまして、それは本当にこれから大事だと思ってるんですけども、一方では、職員数についてはそれに伴うだけ増えているわけではなくて、また、財政が非常に厳しいというのがありますんで、職員に対する負担感が増えているのが率直なところかなと思っております。そういった中でもやはりそれぞれ職員が、しんどいながらもやりがいを感じている職員が8割いるというのは喜ばしいところはあるんですけども、今神崎さんおっしゃったとおり残りの2割についてはそうじゃないということなんで、そのあたり我々管理職がしっかりと仕事の意義、それぞれの仕事に当然意義があるわけですから、そのあたりをきっちりと伝えるとともに区役所、あるいは市政の方針を伝えて、さらにやりがいを感じられるような職場を目指していきたいなと考えております。

○石川委員

すみません、石川です。この災害時の避難場所は知ってるという割合が85%もあるわけですね。85%いうたらほとんど知ってるという意味なんですけども、その割に家具の固定率35%というのが、これ数字のとり方がちょっとおかしいと思います。その持ち出し用でも38%、3分の1あればいいという意味もありますけどね、この辺のとり方が、目標がちょっと大き過ぎるんかなと思ったり、80%というのがね。全体80%というのは目標が高過ぎないですかね。

○朝川副区長

阪神淡路大震災の時の亡くなられた方の9割以上が、家具あるいは建物そのものが倒壊でというのもあるんですけど、圧迫死なんですね。それで我々よく言うんですけど災害の発生をとめることは決してできないんですけども、被害を最小限に抑えるということは可能と。そういった中で、やはり家具を固定するということは効果が非常にわかりやすいと思っておりますので、できる限り多くの区民の方の命を救う、また、被害を抑えるために家具固定については、普及していきたいということで80%の設定をさせていただいております。災害時の持ち出し品の用意についても同様の趣旨で80%なんですけど、この間いろいろ普及啓発取り組んでいたんですけども、半分にも満たないというのが状況ですね、その点についても厳しく受けとめているところでございます。

○石川委員

やっぱり値段の問題ですかね。お金の問題はないですか。お金かかってくるわけですね。

○朝川副区長

確かに避難場所の認知度については単に知っていただいているかどうかで区民の皆さんの負担は伴わないんですけども、やはり持ち出し品の用意にしても、家具の固定にしても、家具の固定については取り付け代については区の負担という事業も今やっているんですけども、石川委員おっしゃるとおり一定の負担を伴うためというのはあるかもしれません。

○石川委員

わかりました。

○栗谷議長

その他、いかがでしょうか。ありますか。

原田さん、お願いします。

○原田（照久）委員

経営課題6の市政改革プランに基づくということで大きな公共を担う活力ある地域社会づくり、16ページですけどね。これ、いわゆる連合振興町会エリア単位での課題の共有と解決へ向けた取組の支援、ここで地域活動協議会の形成及び活動の支援、こういうのは結構今私どもはいわゆる地活協という形の中で頑張っておるんですけども、これの目標の数値と達成状況のこの差が非常に大きいですね。つまり、地域の中で地域活動協議会というものがまだ知られていないということだというふうに思うんですけども。それと、その次のページの非常によく似た内容なんですけども、戦略6-2のアウトカム、地域のまちづくりに関する活動がずっとあって、区民のこれについては目標値は60%なんですけども達成状況40.3%で、結構目標値に近いと。内容的には地域活動協議会とか、そういうふう地域の活動を実際に区民の方がどこまで理解されてる、また知っておられるかという比率だと思うんですけども、これについてはどういうふうに考えたらいいでしょうかね。

○朝川副区長

やはりまず我々の周知、広報紙で地域活動につきましても継続的にご紹介はさせていただいてるんですけども、それでは十分に伝わり切れていない。特に16ページの目標設定については、単に地域の活動だけでなくて会計がオープンになってるとかいうところもついておりますんで、そういったことでよりちょっと低くなっているのかなと思っています。本当にそれぞれの地域では非常に熱心に地域活動に取り組んでいただいておりますので、また地域でも独自に情報発信していただいておりますけれども、それに加えてさらにもっと行政、我々としても活動の紹介、周知についてはこれからもまた努めていきたいと思っております。

○原田（照久）委員

ありがとうございます。

○栗谷議長

南さん、どうぞ。

○南委員

すみません。南ですけど、6ページの子育てスタート応援券の交付ですかね、これ一応97%ってなっているんですけども、実際この子どもたちの人数は何人ぐらいでしょうか。また、どういうふうな97%というのが出たんでしょうか。

○河野保健福祉課子育て支援担当課長代理

保健福祉課子育て支援担当の河野です。よろしくお願いいたします。

実際に利用券自体を交付しておりますのが、26年度末時点で477名の方にお渡ししております。よろしいでしょうか。

○南委員

それが97%ということですか。

○河野保健福祉課子育て支援担当

いえ、それは申請者に対する交付者数であらわしております。ちょっとお待ちください。

交付する対象者数は494名の方がいらっしゃいます、26年度末の時点ですけれども。申請いただいておりますのが480名になっておりまして、それで割り込みまして97%という率を出しております。

○栗谷議長

その他いかがでしょうか。時間もそろそろなんですが。

出水委員、お願いします。

○出水委員

すみません、これ見させていただくとアウトカムがあって、その達成度によってやはり具体的取組についててこ入れをいろいろされたりすると思うんですけども、5ページの地域の未来を担う人材の育成のアウトカムは、ここだけ特に具体的取組1つに限定されて達成度を調査されてるみたいなんですけど、これは何か理由があるんで

しょうか。

○佐藤事業戦略担当課長

事業戦略担当、佐藤と申します。私のほうからお答えさせていただきます。

こちらのアウトカムですが、これが全てのアウトカムではなくて、資料についている分と言いますと複数のアウトカムは設定されております。ただし、その中でも最も顕著に達成度をあらわすものとして重点アウトカムというのを掲げておりまして、その重点アウトカムがディベートスクール参加者の満足度ということで整理させていただきました。例えばほかどのような報告が上がっているかと申しますと、こういった社会教育プログラムでいろいろなもの提供させていただいておりますが、そのプログラム利用者の満足度は平成27年度までに70%、留学生との交流参加者の満足度、平成27年度までに70%といったような形で、複数のアウトカムを設けさせていただいています。その中で最も力を入れているもの、代表選手として掲載させていただいたということでございます。

以上です。

○栗谷議長

角野委員、どうぞお願いします。

○角野委員

5ページのアウトカムの中でディベートスクール、これについて一言だけ提案があるんですが、今、中学生、高校生、また社会人まで実際にやっているわけですが、私の認識からしますと、長年ホームステイをずっと進めてきているという実績があると思うんです、3中学校ともね。そうしますと分けるのも一考ですけど、中高生を交えたホームステイを体験した生徒たち、卒業してるかもわかりませんが交えたそういうのもあっていいのではないかと。それだけ海外出てきて体験してるということは、外国のことに對して、外国語に對して、外から見た日本に對してすごく積極的な気持ちを持ってると思いますので、分けずにまた混ぜるということも、語学っていうのあ

んまり分ける意味はないのかなと。それほど今までの実績があると思うんですよ。それでちょっとそんなこと思ったんですけども。

以上です。

○栗谷議長

ありがとうございます。その他ありますか。

平田委員、よろしくお願いします。

○平田委員

平田と申します。6ページの待機児童ですね、平成27年度4月は11人となっております。この11人に対してはどのようにサポートしてあげていただいているんでしょうか。また、この27年度内にはもうゼロに近い待機児童のように、どのように考えておられるかちょっと教えていただけますか。

○朝川副区長

やはり待機児童解消の一番の特効薬は、保育所本園の整備だと思っております。これ26年度の実績ですので、昨年度についてはおおぞら保育園を開園してはんですけど、本年の10月にも1園、定数80ですかね、開設予定でして、また来年度に向けても開設に向けて、これは所管はこども青少年局なんですけれども、今事業者の募集を進めているところでございます。まずはしっかりとそういった基本的なインフラでしょうか、その整備もしていきたいと思っておりますし、現に待機されている方々については、毎月毎月各園の年齢ごとの空き情報も公開させていただいております。また子育て支援室では、いろんな公立園・私立園も含めた情報をお勧めできるように専門のスタッフも最近雇っておりますので、そういった形で引き続きケアや広報をしていきたいと思っております。

○栗谷議長

そろそろお時間ですのでいいでしょうか。ほかございますか。ありましたら。なければ、討議のほうへ移りたいと思いますのでよろしいでしょうか。

○佐藤事業戦略担当課長

それでは、グループ討議の進め方につきまして説明させていただきます。昨年度も実施いたしましたが、少人数でのグループ討議でございます。私の座っているところから、各列に1班ずつつくっていただきたいと思います。まず私どもが正面です、越村委員までが1班。その並び、ちょっと人数にばらつきございますので、服部委員までが2班とさせていただきます。一番奥の1列で、また3班とさせていただきます。中野議長は1班、栗谷議長には2班に加わっていただいと思っています。

区長からございました、特に分野の指定はございませんので、来年度に限らず、今後天王寺区が取り組むべきこととして皆さんが関心を持っておられること、また現在事業をしております点について、こんなふうに見直したらいいんじゃないかと、もっとここ力を入れたらいいんじゃないか、改善したらいいんじゃないかというようなことについて自由にご意見をいただきたいと思います。各班班長、課長代理が司会進行役及び記録係を務めますので、また机の上に置かせていただきます天王寺区の主な取組の事業ボードなども参考にしながら、事業の概要に対するアイデアですとか、新たな取組の提案などいただけたらと思っています。

議員の先生方につきましては、よろしければ順次テーブルにお回りいただきまして、討議の様子をご覧いただければと思っています。また、傍聴の方もそばに寄っていただい結構ですので、よろしくお願いいたします。

少し時間のほうが超過しておりますので、各班の議論は今から約30分と予定させていただきます。グループ討議終了後、元の席にお戻りいただきまして、また各班から出された意見をまとめまして、記録係より報告、全体で共有してまいりたいと考えております。また、報告後、区長からもコメントさせていただく予定です。よろしくお願いいたします。

では、テーブルのほうちょっと回して移動させてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(グループ討議)

○栗谷議長

すみませんが、ありがとうございました。そろそろ時間になりましたので、グループ討議は終了させます。

それでは、各班で出席した意見等について記録係より報告よろしく願いいたします。

○渡邊危機管理課危機管理担当課長代理

では、一番入り口に近い方で議論いたしました班の発表をさせていただきます。

石川委員のほうからあなたの声をつなげ隊につきまして、どこで活動しているかわからない。見かけることもあるんだけどよくわからないということで、活動についてもっとわかるようにしていただきたいというご意見のほう頂戴いたしております。

続きまして、高齢者福祉に関連いたしまして中野委員のほうから、昔ありましたネットワーク推進員の制度につきまして、この制度の復活が必要ではないかというご意見を頂戴しております。これに関連いたしまして角野委員のほうから、ネットワーク推進員だけではなくて、例えば民生委員、あるいは地域活動協議会、あるいは社会福祉協議会、区役所、そういった既存の各団体との取組の連携、そういった充実も必要ではないかというご意見を頂戴しております。

続きまして、にぎわいづくりの関連に移ります。神崎委員のほうから、区民まつりの場を活用して真田幸村博の告知などをして、より多くの人に知っていただくことが必要じゃないかというご意見を頂戴しております。

また河村委員のほうからロードサイン整備につきまして、日本語・英語のみならず、例えば中国語とか韓国・朝鮮語といった多言語での案内整理、あるいはわかりやすいサインとなるような整理をすることにより区内の回遊性を高める、そういった取組が

必要ではないかというご意見を頂戴しております。

地域のつながりづくりにつきまして越村委員のほうから、やはりマンションが増えている一方で、地域活動協議会の取組につきまして協議会が結成されてからそんなに間がないということもありますので、少なくとも地域活動協議会の取組を知っていただく地域活動の広報も兼ねて、そういった取組として例えば区のほうで、区役所がマンションと地域のつなぎ目役となるようなそういった役割のほうも期待したいというご意見を頂戴しております。

最後、これは学校整備の関係になってくるんですが、出水委員のほうから小学校の空調について、順次整備は進んでいるんだけど、昨今暑い日が続いているということもありまして、なるべく早期の整備を図っていただきたいというご意見のほう頂戴しております。

こちら入り口に近いところの班で議論いたしました内容につきましては、以上でございます。

○寺戸係長

引き続きまして、2班で議論した内容でございます。

まずイベントの関係、にぎわいづくりということなんですが幸村博、田淵委員から幸村博は継続すべきではないか、また服部委員からは地域のイベントに、地域いろんなイベントありますけれども、ボランティアとして子どもが参加できるような取組をしてほしいという意見がありました。

次、自転車のマナーの関係です。出村委員からは、わがまち会議で自転車マナーの向上について以前からかなり行ってきましたが、今後も継続した取組をしていくべきだという話と、あと栗谷議長から自転車置き場の整備をしてほしいという話がありました。

防災の関係なんですが、服部委員から災害訓練ですね、子どもが参加しやすいものをつくってほしいということ。あと谷口委員からは、大阪の人は危機意識が薄いんで

家具固定器具の取付事業は、今、高齢者の方が対象なんですけれども、若い人を対象にすればいいというご意見がございました。あと栗谷議長からは出前講座ですね、特に防災なんですけれども取り入れてほしいというお話がありました。

あとごみの収集ですね、環境問題なんですけれども、出し方、そういったものをきっちり周知するべきだ、わかってる人とそうでない人の差があるということで、栗谷委員からご意見がありました。谷口委員からも同様に、ごみの出し方をきっちりすべきというご意見がございました。

あと行政財産なんですけど、出村委員から行政財産は売却ばかり考えず活かしてほしいと。マンションばかり建つっていうのもいかなものかなというご意見がございました。

あと酒井委員から地域福祉の問題なんですけれども、相談支援センター、この4月から委託先が変更して天王寺と中央のセンターに合併したと。ところがそのセンターなんですけれども開いてない時があるというようなことがあって、きっちり区役所と連携をとって対応してほしいというご意見がありました。

以上です。

○東浦係長

引き続きまして、3班のほうの発表させていただきます。

まず飛田委員からですけども、地域活動に参加する方が固定化してきているのでそれを何とかしてはどうかというような意見がございました。もう1つ、自転車マナーの向上と、比較的、区内に坂道もあって危ない箇所が多いので、お年寄りにも配慮した自転車マナーの向上というのが必要じゃないかということで、平田委員からも同様の意見をいただきました。

あと南委員のほうからは、英語ディベート事業に関して募集を区全体で行っているわけなんですけども、そういう形ではなくて公立中学の1つだけで実施するなど、そういう集中した募集の仕方ができないのか、あと説明会に学校の先生に出てきてもら

うようにしてはどうかとかいうような意見もいただきました。

あと眞野委員からは、目標に達成しなかった事業を区民に伝えることが重要じゃないかと。区広報紙などで特集を組めないかという意見をいただきました。

守島委員のほうからは2ついただきまして、広報紙について全国の広報紙アプリというようなものがあるということで、そちらに掲載してスマホで見れるようにしてはどうかという意見をいただきました。あともう1点が独居高齢者対策、見守りには限界がありまして、災害時に備えて取組を強化すべきだというようなご意見、あとマンションなんかで参加が難しい方もいっぱいいらっしゃいますので、それにつきましてはマンション住人の一人をマンション部長として、その方を中心にして見守りを行ってもらってはどうかという意見を頂戴いたしました。

あと原田久仁彦委員のほうからは、事業の周知徹底を図っていくべきだと。ITリテラシーに弱い方がいらっしゃいますので、こういった方々に事業の周知を徹底すべきだと。また、dボタンというの活用してはどうかという意見を頂戴しました。

最後に原田照久委員からは、区民が自分の意見が届いている割合が3割というのは非常に少ないと。もっと地活協などでコミュニケーションをしっかりと図るべきだという意見を頂戴いたしました。

以上です。

○栗谷議長

各班からのご報告ありがとうございました。

それでは、水谷区長様よりコメントのほうよろしく願いいたします。

○水谷区長

皆さん、どうも長時間お疲れさまでした。時間も迫ってますので、私のほうから手短かに。

まず、こちらの南さんのご意見、英語ディベートスクールもっと学校との連携を深めようじゃないかって、本当そうだと思います。やっぱり説明会等にも英語の先生に

出席してもらおうと、実際その重要性を実感していただいて、英語教育を学校の中でもより強化してもらおう、まさにそういう方向にこれからお願いしていきたいと思います。

それから、これは一番聞いてて興味深かった意見なんですけども、谷口委員がおっしゃったじつは家具固定の取り付け事業をやるのは高齢者じゃなくて若い人対象にやるべきじゃないかっていうの、これは目からうろこの意見で、確かに若い人の危機意識が総じて薄いついていうのはまず私も若手世代の一人として実感するところなんです。今まで災害がひとたび起きたら一番被害こうむるのはお年寄りとか障がい者だろうということで、そこに絞って事業を進めてきましたけども、発想を広げて対象者に若手を取り込む、もちろん議論はあるんでしょうけども、若い人の災害に対する意識をどうやって引き上げていくのかというのはもっともっと真剣に取り組まないといけないのかなと、聞いていて本当に目からうろここというか、驚きのものでした。

最後、田淵委員ですかね、幸村博を継続してほしいという、幸村博に対する思いが非常に深い私としてはうれしいお言葉をいただきました。しかしながら、私の任期もう少なくなってきたしておりますし、いろいろと状況がありますから、恐らくこの幸村博というものも来年度以降も継続できるかっていったら非常に危ぶまれてる状況であると。しかしながら、これは1つの流れですんで、それを受けとめていただいて、そういうのが必要かどうかってこともまた考えていただければいいんじゃないかと。恐らく幸村博もなくなっていくという形になるんじゃないかと思います。

こうやって皆さんからジャンル問わずいろんなご意見を聞いて、区役所としても仕事に役立てることができると、これが区政会議の大きな意義だと思いますので、こういう自由討論でグループ分けにしてやるようになってから我々も本当に勉強になるところが多くて、今日の学びを今後にも活かしてまいりたいと思います。どうもありがとうございました。

○栗谷議長

水谷区長ありがとうございました。

それでは最後になりますが、本日ご出席いただきました足高議員及び金子議員から一言ずつコメントをよろしくお願いいたします。それではまず、足高先生お願いいたします。

○足高議員

すみません、足高でございます。今日はそれぞれ相談しご提案なりいただいて、ちょっとずつしか聞かせていただけていませんけども、だいたい防災の問題を中心にいろんなお話が多かったように思います。震災に対する問題は非常に難しいところがございます、天王寺は直下型の地震については大変厳しいという思いがあります。南海トラフの関係で言えば津波で一部、下寺町とか、上本町のちょうど西側は厳しい状態にあるかもわかりませんが、それよりまずは本当は皆さん方が避難場所に逃げる時に自分だけ逃げたらええということではなしに、例えばそれぞれが一遍絵描きはったらいいんですけど、自分の家から避難場所行く時に真っすぐ行ったら一番早道で、もちろん短時間で逃げるんは大事なんですけども、そういう時にふだんからお年寄り、あるいは独居老人がどの辺にいてはるとかいうことをそれぞれ覚えときはって、万が一あったらピンポンしながらでも行くとか、コンコンするとか、いろんな工夫をしてやったらどうですかっていうの大事やなって。実は私が震災の後に、北海道の教育大学で、もともと大阪の大学の教授やった女性の教授がいてはってですね、行った時にそれ教えていただいた。そしたら、本当に目からうろこが落ちるっていう、僕らは早よ逃げたらええわっていう感覚しかなくてなかったし、それがそうやっていくと普段からそういうところにどんな方が住んではる、それはもちろん町の中でお年寄りがよく知ってはったらええんですよ。ところが、先ほど一部、議論があったように、やはり昔やったらネットワーク委員とかいてはってですね、だいたいお年寄りどんな状態か知ってはったけども、区役所が民間でできるような仕事はどんどん放り出したもんやから全部辞めさせられて担当している人、今どこもいてない。それを逆に言うたら、急になってお年寄り問題は民生委員がせえとか、早く早く、放り出したんだけ

ど外した人の中に言葉悪いけど無償で何とかせえという無理難題を押しつけるのが今実情なんで、そういうことあるんであればやっぱり地域の人々が自主的にやっぱりそういう形の中で逃げる時は逃げる、ただ逃げれない、あるいは先ほどお話ありましたが、全員が避難場所に逃げれるわけがない。あの狭い場所では全部は収納し切れません。もちろん第2の避難所に行ったところでは全部は無理。だから、残ってる家はその地域で生きるように、逆に地域のほうで例えば昔、平成23年の3月やったと思いますけども、その時に危機管理課と僕と相談した中で、ただ地域にロッカーとか、あるいは食べ物を入れて水も含めて、毛布も、天王寺区はそういうのは持ってもよろしいよという約束がございます。現状そういうことがないから、今準備されてないようですけどね。そういうことも踏まえて、地域でもしもあった時に地域の役員さんの皆さん方が、地活協違いますよ、地域の振興会の皆さん方が力合わせて、地域の活動守るようなこともこれからもう一遍考えてもうてもいいんじゃないかと思っておりますので、いつもやったら小言言うてるんですけど、今日は皆さん非常にいいお話やったんで一つ提案だけ言わせていただきました。ありがとうございます。

○栗谷議長

それでは、金子議員よろしく願いいたします。

○金子議員

皆さん、こんばんは。長時間お疲れさまでございました。

この区政会議っていうものがどういうものなのかっていうのが、今回私初めて参加させていただいて大変楽しみにしていたんですけども、少しずつ私もお話聞かせていただいて、やはり区民の皆さんからの区民目線での天王寺区ならではの問題提議とか、課題っていうものが直に聞けるととても貴重な場であるなということが実感いたしました。例えばどこのグループでもおっしゃっておられました自転車の問題、やっぱり天王寺区ならではのだと思うんですね。坂がたくさんあるのでとても危険だとかっていう視点は、やはりほかの区ではあまりわからないところでも、区民の皆さん日々

過ごしている中で感じていること、こういうことが何か区自体の施策として対応していけないかっていうことについてお話が聞けるっていうことがやっぱり一番大事なんじゃないかと思いました。

あと、天王寺区っていうのはやはりポテンシャルの高い地域でございますので、観光のポテンシャルなんですけれども、観光客を誘致するということについてもあちらのほうで言われておりましたロードサイン、これはやはり天王寺区に来られた方をどれだけ天王寺区でお金を使っていただいて、どれだけ滞在していただくかっていうことに直結する大事な視点だと思います。こういったことについてもやはり天王寺区に住んでいる方でなければ、区民の方じゃなければ、なかなか出てこない課題じゃないかと思いました。ぜひこういった場で、皆さんの忌憚ないご意見をいただいて、今後私も大阪市会に戻りまして、どういったことが私のほうでもできるのかということをお慮させていただきたいと思っております。本日は本当にありがとうございました。

○栗谷議長

足高議員、金子議員ありがとうございました。

議題につきましては以上で終了させていただきます。

これで区役所のほうに進行をお渡しさせていただきます。お願いいたします。

○佐藤事業戦略担当課長

ありがとうございました。

中野議長、栗谷議長、また委員の皆様、多くのご意見いただきまして、まことにありがとうございました。また、足高先生、金子先生ご助言非常にありがとうございました。

それでは以上をもちまして、平成27年度第1回天王寺区区政会議を終了させていただきます。

皆様お忘れ物のなきようにお気をつけてお帰りください。本日はどうもありがとうございました。

—了—